

論文審査結果報告書

論文提出者氏名 蒲生 佳華

学位論文題目 Clinical effectiveness of a self-reported
questionnaire on nocturnal parafunctional activities

審査委員（主査） 小野 堅太郎



（副査） 榎原 絵理



（副査） 安細 敏弘



論文審査結果の要旨

睡眠時ブラキシズムは歯根破折や補綴装置の破損、インプラントの適応の制限など、歯科治療を行う上で大きな障害となるにも関わらず、睡眠検査室での検査を患者に実施するのは困難である。本研究は、自記式質問紙による睡眠時ブラキシズムの1次スクリーニングに関して、EMG解析等の客観的診断法との相関性の解析を行うことにより臨床的有効性を検討することを目的とした。

自記式質問紙は、Lavigneらの提唱した質問項目を用いた。睡眠時ブラキシズムの計測は、携帯型筋電図測定装置（ProComp5：ソートテクノロジー社製）を用いた。携帯型筋電図測定より、最大噛み締め時の10%、20%、30%を閾値として睡眠時ブラキシズムエピソード数および積分値を算出した。被験者は健康な成人10名（男性2名、女性8名、平均年齢22.8歳）であった。本研究では、初夜効果を排除するため測定連続3夜のうち最終夜の測定結果のみを評価した。

睡眠時ブラキシズムのイベント数とブラキシズムの自覚程度、および筋電図積分値とベッドパートナーからのブラキシズムの報告は有意な相関を示していた。起床時の痛みや疲労の有無には明確な相関が見られなかった。

以上の結果より、被験者数が少ないため今後のさらなる検討が必要であるが、少ない被験者数でも有意な相関が得られた質問項目は、睡眠時ブラキシズムの一次スクリーニングに有用であることを示唆している。公開審査において、申請者が実験計画とデータ解析を行っていることが確認され、本研究の課題と将来展望に関して申請者からおおむね適切な回答を得た。以上のことから、審査委員会では本研究が学位論文として価値あるものと判断した。